



日本国憲法
教育基本法
学習指導要領
第4次山形県総合発展計画
第7次山形県教育振興計画
『ウェルビーイングを目指し
多様なあふれる持続可能
な社会の実現を担う山形
の人づくり』

学校教育目標 **自ら考え 仲間と磨き合い くらしを創造する子どもの育成**
めざす子どもの姿 **たのしいくらしをつくる子ども**
めざす資質・能力 ○【**主体性**】課題を自分ごととして意識し、自ら考え判断しながら学びに取り組んでいる
○【**協働性**】課題を解決するために、必要感をもって仲間とかかわっている
○【**自律性**】自らの高まりや新たな課題に気づき、学びを調整しながら追究している

児童・学校・地域の実態
児童保護者地域の願い
教師の願いや思い

中山町教育振興計画
基本理念
『郷土を誇りに思い
豊かな心と創造力に
あふれ たくましく
生きる人づくり』

【めざす資質・能力を実現するための今年度の重点】

1. 安心・安全の中で、一人一人のよさが発揮できる学校………**安心して生活できる学級づくり**
2. 個別最適な学びと協働的な学びが、一体的に進められる授業………**自律した学びが見える授業づくり**
3. 自律した生活づくり、豊かな体験活動の実施………**家庭や地域と連携したくらし・学びづくり**

今年度の重点の設定理由

子どもの育ちを実現するには、安心して生活できる場、自律した学びが見える授業、家庭・地域との連携が重要であると捉えている。

子どもを育てる各部の重点活動
〈主体性・協働性・自律性を軸に〉

【まなびづくり支援部】
学び(成長と課題)を的確に捉える。
「めあて→活動→ふり返し」の
学習プロセス大事に。
重点活動：・トークタイム・運動会
・合唱発表会

【くらしづくり支援部】
3つの柱を大切に指導する。
〈自己決定、自己存在感、共感的理解〉
重点活動：
・児童会活動 ・縦割り活動
・特別支援教育 ・しごとタイム

重点目標の達成に向けた 具体的な取り組み

重点目標1 **安心して生活できる学級づくり**

- ① 一人一人のよさが認められる特別活動の充実
- ② 居心地のよい学級に向けた自己管理能力の育成
- ③ 特別な支援を要する子どもや気になる子どもへのチームとしての支援の充実(発達障がい、不登校等)

重点目標2 **自律した学びが見える授業づくり**

- ① 個別最適な学びが可能となる単元構成の工夫
- ② 個々の課題設定と課題解決が可能となる学習環境の設定
- ③ 発達段階に応じた、必要感のある協働的な学び方の習得

重点目標3 **家庭・地域と連携したくらし・学びづくり**

- ① 家庭と連携した読書や主体的な家庭学習の充実
- ② 地域の人材、学習材を活用した豊かな活動・体験の実施
- ③ 家庭と連携した基本的な生活習慣の確立

重点目標の評価検証方法

- * 学校評価
- * 客観的データ
(全国学力・学習状況調査、
標準学力調査 Q-U 質問結果)
- * 教員の自己評価
(兼教職員評価)

重点目標を具現化する研究活動

【研究テーマ】
自分の学びをつくる子ども

- 【取り組み】
- ① 教師の意識改革
「子ども」と相談する
 - ② 単元構成の工夫
個別指導の追求と集団指導の
追求に、学びをつくる節目を組
み合わせた学習単元をつくる
 - ③ 内容研究の充実
 - ④ まなびづくりタイム
(月火木金の放課後)

重点目標の達成に向け、教員一人一人が具現化する方法

- ①重点目標1. 2. 3の取り組み内容については、一人一人の教職員人事評価の「自己目標」に設定していく。
- ②重点目標2の具現化にあたっては、各教員が「授業実践年間プラン(重点的な取り組み)」を作成し、実践と評価・改善を繰り返して進めるなど、意図的・計画的・継続的な実践を重視する。

学校評価の進め方

- ・重点目標の取り組み状況、達成状況を中心に自己評価を実施する。
- ・保護者評価も実施し、学校経営に活かす。(保護者周知)

教職員人事評価の進め方

- ・重点目標1. 2. 3の取り組み内容を教職員人事評価の「自己目標」に設定し、定期的に評価する。

教員一人一人が、授業準備や教材づくり、児童の諸活動、相談等に専念できるなどの
教員の教育活動を支援する学校経営活動

組織・運営の改善、会議改革

教務

- ・子どもの育ちと安全の実現に向けた会議の適宜開催。(週初めの企画委員会、運営委員会、学年主任会、職員会議、週1回の職員打ち合わせ等。)
- ・カリキュラムマネジメントの推進。
- ・教科担任制の導入。(学年、学年部)

教育課程(行事や週時程を含む)の改善等

教務 支援部

- ・子ども主体で考えて取り組む児童会活動。
- ・子ども主体の運動会の取り組み。
- ・子ども主体の合唱発表会の取り組み。
- ・放課後の「授業づくりタイム」。
- ・2期制の学習評価。
- ・モジュールの有効活用。

支え合う特別支援教育体制の見直し改善

特支 Co

- ・職員打ち合わせ後の「子どもを語る会」等を通じた情報共有と全職員の共通理解のもとでの支援。
- ・特別支援 Co を中心とした支援体制の構築。
- ・共通理解のもと、複数指導体制等の環境整備。
- ・ケース会議(気になる子どもについて)の適宜開催。
- ・子どもの特性に応じた指導。(町学校支援員や教育相談員活用)

家庭・地域との連携、教育資源の活用等

教頭

- ・学校運営協議会の開催。
- ・学校からのお便りやHP等を通して、子どもたちの学びの様子の紹介や情報共有。
- ・地域の人材や素材の積極的活用。
- ・地域の会議(町区長会議、歴代PTA会長会等)における学校方針や子どもたちの様子の積極的発信。